

薬剤課

部門の紹介

薬剤課スタッフ一同、薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢とし、救急医療に対応するため24時間の勤務体制でチーム医療に貢献しています。がん化学療法では、がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師が協動し抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・有害事象防止の提案を行ない安心・安全な化学療法を提供しています。抗菌化学療法認定薬剤師を含む課内感染チームが感染制御に携わり、高度医療(医薬品)安全推進者の認定を受けたスタッフが医療安全・医薬品安全を推進しています。DMAT(災害派遣医療チーム)の業務調整員も在籍し、災害発生時の対応も行なっています。NST(栄養サポートチーム)専門療法士は薬学的見地より薬剤の処方内容を検討するとともに、輸液製剤・経腸栄養剤と薬剤との相互作用の検討を行ない、患者の回復を栄養面から支援します。糖尿病、アレルギー疾患、心不全、腎臓病の各療養指導士もそれぞれの分野で活躍しています。このように当課では専門・認定薬剤師の取得を支援しています。今後は地域の保険医療機関や保険薬局との連携を強化していきたいと考えております。

主な業務内容

■調剤業務

処方監査をし、薬剤の減量等が必要な場合は医師に疑義照会した上で調剤します。計数調剤管理システムや散薬監査システム、錠剤自動分包機、散薬自動分包機、散薬調剤ロボットも導入しています。

■外来薬剤指導

がん治療に係る説明や、吸入薬・インスリン等各種デバイス等の説明を行なっています。

■製剤業務

市販がない製剤を医療現場からの要望により、妥当性を評価し調製しています。また、入院小児患者さんに使用されるTPN(経静脈栄養法)の輸液調製を行なっています。

■医薬品情報業務

最新の医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。また薬事委員会の事務局として医薬品の採用に係る審査を行ないます。

■病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟の専任薬剤師が持参薬・薬物相互作用・副作用歴・アレルギー歴・喘息の既往、検査値の確認を行ない、退院するまで継続して検査値、薬物有害事象の確認を継続し、処方提案を積極的に行ないます。医師・看護師などへの医薬品情報の提供、病棟における医薬品管理などを行なっています。カンファレンスや回診にも同行します。

■抗がん剤等の無菌調製およびモニタリング

医師から申請されたレジメンを審査し、登録を行ない、その情報に基づき、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行ないます。リーフレットを用いた投与スケジュールや予測される副作用について説明し、抗がん剤投与後も有害事象をモニターし支持療法を提案しています。

■治療薬物モニタリング

抗菌化学療法等、適正な薬物療法のため薬物の血中濃度から投与設計・モニタリングを行ないます。アミノグリコシド系薬剤等は腎臓の機能に合わせた投与量が必要とされ、MRSAに使用されるパンコマイシン等は抗菌力を発揮するためには十分な投与量が必要とされます。薬剤師は体重や腎機能に合わせた投与量の設計を実施し、医師に提案しています。

■入院支援センター業務

予定入院患者さんの常用薬、副作用歴、休薬が必要な薬剤の確認などを行ない、必要な説明や情報提供を行なっています。

スタッフ紹介



薬剤課 課長
原田 桂作

はらだ けいさく

特徴・強み

薬剤課の特徴・強みとして、小児の薬物療法に注力していることです。小児薬物療法認定薬剤師も在籍し、患児だけでなく、保護者に対しても医薬品に関する説明や助言・教育を行なっています。小児領域の薬物療法は、長期にわたるがん化学療法の管理や成長ホルモンや吸入のデバイス説明、糖尿病療養指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、成人とは異なる難しさがあります。なかでも小児のがん化学療法を専門的に行なえる施設は全国的にも少なく、当院の特徴の一つと言えます。薬剤師が、がん化学療法に密接に関わることで患児やご家族のQOLがあがり、レジメン遂行の達成率もあがると考えられます。

成人の患者さんにも同様な手厚い病棟薬剤師業務を実践しています。退院後の薬物療法が安全に行なえるように八幡薬剤師会とも密接に連携をとっており、定期的に薬薬連携会を開催しています。

薬学生の教育に力を入れており、年間最大9名の長期実務実習生(11週間/II、III、IV期)を受け入れ、病院薬剤師として必要な知識・技能を習得出来るよう指導を行なっています。

令和4年度 業務実績

処方箋枚数(入院)	4,868.2枚/月
処方箋枚数(外来)	5,995.2枚/月(うち院外5,926.2枚/月)
注射処方箋枚数(入院)	5,057.8枚/月
注射処方箋枚数(外来)	998.3枚/月
抗がん剤調製件数	1,019件
がん患者管理指導料3算定件数	20件
病棟薬剤業務加算1算定件数	13,927件
薬剤管理指導算定件数	
薬剤管理指導料(325点)	5,336件
薬剤管理指導料(380点)	6,471件
退院時薬剤情報管理指導料	4,538件
麻薬管理指導加算	132件
T D M 解析業務件数	112件
吸入指導件数	353件
インスリン・SMBG指導件数	63件
成長ホルモン・デバイス指導件数	1件
骨粗鬆症デバイス指導件数	1件
入院支援センター面談件数	358件
薬学部実務実習生受け入れ	5名

資格認定者数

専門資格名	人数
認定実務実習指導薬剤師	3名
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会認定NST専門療法士	1名
日本医療安全学会高度医療安全推進者	1名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名
日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本臨床腫瘍学会認定外来がん治療認定薬剤師	2名
日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定薬剤師	1名
小児薬物療法認定薬剤師	3名
日本救急医学会認定救急認定薬剤師	1名
日本災害医学会認定災害医療認定薬剤師	1名
日本災害医療薬剤師学会災害医療支援薬剤師	1名
日本救急医療医学会ICLS	3名
アレルギー疾患療養指導士	2名
日本循環器学会認定心不全療養指導士	1名
腎臓病療養指導士	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2名
福岡県糖尿病療養指導士(LCDE)	2名
肝炎治療コーディネーター	6名
介護支援専門員	1名
第二級陸上特殊無線技士	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	9名
日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	2名